

日本・アジア青少年サイエンス交流事業
さくらサイエンスプラン
Japan-Asia Youth Exchange Program in Science



<http://ssp.jst.go.jp/>



平成27年度の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」 （「さくらサイエンスプラン」）の基本方針

*本事業は平成27年度政府予算の成立を前提としており、予算の成立状況によっては、変更・調整が必要となる場合があることをあらかじめご了承下さい。

本事業の目的

アジアは飛躍的に発展しつつあります。科学技術は、これからのアジアの未来を切り拓くものであり、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることは、これからのアジアと日本の未来にとって、極めて重要なことです。

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（以下、「さくらサイエンスプラン」という。）は、産学官の緊密な連携により、優秀なアジアの青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指します。そしてアジアの青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成を進め、もってアジアと日本の科学技術の発展に貢献することを目的としています。

事業実施の基本的考え方

(1) 次の交流事業を連携させながら一体として推進します。

① 一般公募事業

日本の受入れ機関がアジア諸国・地域（*）の送出し機関から、青少年を短期に招へいし、科学技術の分野で日本の青少年と交流することなどを進める交流計画を公募し、採択された交流計画を推進する事業です。

招へいする青少年は、高校生、大学生、大学院生、ポストドクターなどで、原則として日本に初めて滞在することになる40歳以下の青少年が対象です。

（*ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、中華人民共和国、インド、インドネシア共和国、大韓民国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、モンゴル国、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、台湾、タイ王国、ベトナム社会主義共和国、の15の国・地域（アルファベット順）

② さくらサイエンスハイスクールプログラム事業

JSTがアジアから優秀な高校生を招へいし、日本の最先端の科学技術や最も優秀な科学者に接する機会を作る事業です。招へいするアジア諸国・地域は、公募事業と同じで、原則として日本に初めて滞在することになる高校生が対象です。

③ 科学技術交流支援情報提供事業

JST等の有する科学技術交流に関する情報を収集、整理してリスト化し、これらの情報を他の国際交流プログラムに提供します。そしてそれらのプログラムで来日するアジア諸国・地域の青少年の科学技術分野における交流活動に活用してもらう事業です。

(2) アジア各国・地域からの招へい者の人数の目安等の計画を立てて取り組みます。

(3) アジア各国・地域の関係の政府機関、国内の政府機関等と密接な連携・協力をとりながら進めます。

(4) 協力機関の登録など事業が発展していくように基盤を構築しながら進めます。特に優秀な青少年を派遣する可能性のある送出し機関の登録については、JSTが積極的に取り組みます。

(5) 本事業によって招へいする青少年にとって意義深いものとなるように、本事業の質の向上に努めながら進めます。そして、本事業が将来、日本とアジアの科学技術の発展に繋がるようにフォローをしていきます。

事業の進め方

(1) 一般公募事業

① アジア各国への働きかけ

本事業の実施に当たっては、JSTは幅広く優秀な学生の参加を促進するため、基本方針に基づき、アジア諸国・地域を訪問し事業の広報を行い本事業への参加を働きかけます。さらに、必要に応じてJSTが受入れ機関の探索などを支援します。

② 交流計画の立案

我が国の受入れ機関は、基本方針に基づき、送出し機関と連携をとり、科学技術交流支援情報提供事業のコンテンツを活用した、交流計画を立案します。交流計画には、以下の3つのコースがあります。

なお、必要に応じてJSTが相手方機関の探索等を含めた交流計画の立案を支援します。

(A)「科学技術交流活動コース」は、来日するアジアの青少年が日本の学校や企業などの受入れ機関のアレンジメントにより、その受入れ機関における特別講義の受講、研究室訪問などの活動（これに加えて他機関における活動を含めることも可能です。）に参加するもので、滞在期間としては10日間を限度とします。

(B)「共同研究活動コース」は、来日するアジアの大学生、大学院生やポストドクターが日本の学校や企業等の受入れ機関のアレンジメントにより、その受入れ機関において日本の研究者と短期の共同研究活動などを行うもので、滞在期間としては3週間を限度とします。

(C)「企画活動コース」は、来日するアジアの青少年が受入れ機関（地方公共団体、財団法人又は社団法人であって、自らは教育や科学技術の研究開発活動を行わない機関を対象とします。）のアレンジメントにより、その受入れ機関が企画する大学や企業の研究室訪問、学校や科学館訪問、科学実験などのサイエンスイベントなどの交流活動に参加するもので、滞在期間としては10日間を限度とします。

③ 公募の実施

平成27年度は、応募状況等を踏まえて、複数回の公募を行うことを予定しています。

④ 交流計画案の申請

受入れ機関が送出し機関と連携をとりながら立案した交流計画案を、一定の様式に従って、受入れ機関がJSTに申請します。

⑤ 交流計画の決定

JSTに提出された交流計画案は、JSTの「日本・アジア青少年サイエンス交流事業推進委員会」（以下、「委員会」という。）にかけられます。委員会では、提出された交流計画案が、基本方針を達成する上で適当なものかどうかなどの視点に基づき、交流計画について審査を行い、その結果を踏まえてJSTが採択する交流計画を決定します。なお、採択の決定にあたっては、アジアからの優秀な青少年を受け入れることになっていること、適切な科学技術分野の内容になっていること、適切な日程であることなど交流計画の妥当性の他、人口、研究人材数や我が国への留学生数などを総合的に勘案したアジア各国・地域のバランスも考慮されます。

⑥ 受入れ機関と送出し機関の登録

交流計画案がJSTに申請された場合に、申請書に記載された受入れ機関と送出し機関は、本事業への協力機関として登録されます。なお、登録のための情報の内容に不備又は不適切なところがある場合は登録されないことがあります。

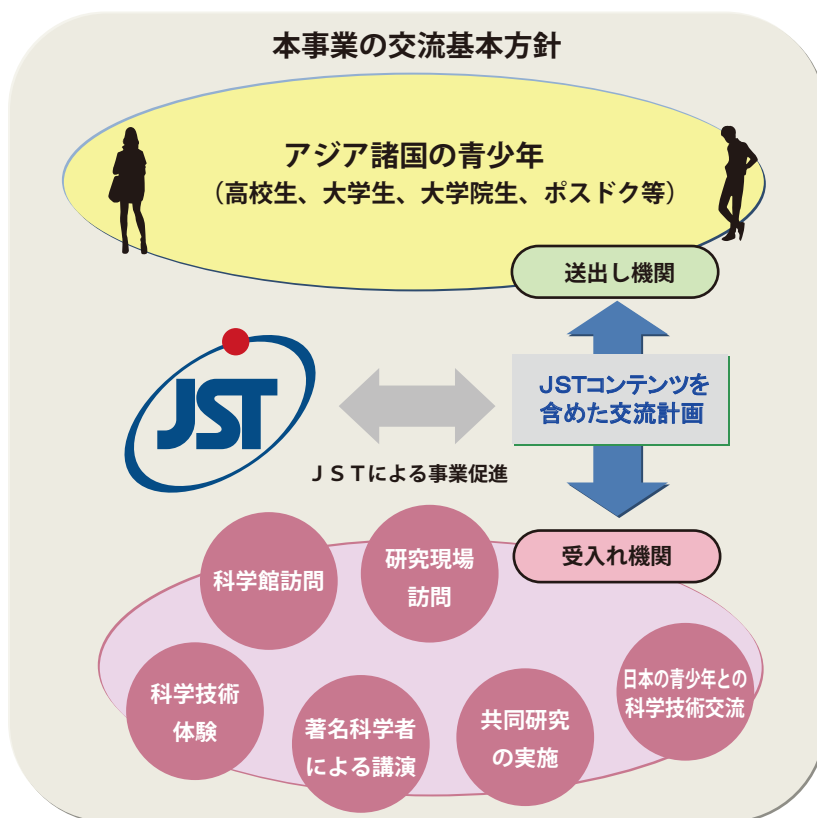
⑦ 交流計画の実施

実施のための事業費は、JSTから受入れ機関に提供されます。なお「Aコース」及び「Bコース」において、企業が受入れ機関となる交流計画については、原則としてJSTから招へい者の渡航費の提供がなされ、その他の費用については受入れ機関の協力により実施されます。また、「Cコース」についても企業が訪問先となるような場合においては、その滞在費等については原則として当該企業の協力により賄われます。

受入れ機関は、交流事業実施後に交流事業の実施結果について、参加者のアンケート結果を含めた報告書を提出します。

⑧事故等への対応

受入れ機関は、招へい者に病気や事故が発生した場合において、明確な責任者を決めておくこと、学内・関係機関・JST などへの連絡方法を決めておくことなどの事故等への対応体制を構築しておくとともに、実際に招へい者に病気や事故が発生した場合は、対応体制に基づき責任をもって万全の対応をするように務めることとします。また、JST は受入れ機関による事故等の対応が円滑に進むよう必要な支援を行います。



参考：一般公募事業の概念図

(2) さくらサイエンスハイスクールプログラム事業

①プログラムの構築

JSTは、国内外の関係機関と連携して、アジアから優秀な高校生を招へいし、大学、研究機関、科学技術に関連する企業等の訪問、優秀な科学者からの講義の受講などからなるプログラムを構築します。

②留意点

プログラムの構築や実施においては、特に次の点に留意します。

- (I) アジアの国・地域から優秀な高校生が選抜されるように、それらの国・地域の関係機関と連携・協力します。
- (II) アジアの国・地域間の高校生が交流できるようにするとともに、日本の高校生とも交流できるようにします。
- (III) アジアの国・地域及び日本の高校の夏休みの時期を考慮します。

(3) 上記の両事業の共通事項

① アジアの国・地域との連携・協力

JSTは、本事業の効果的な推進のため必要な場合に、15の対象国・地域の関係機関と円滑かつ効率的な連携・協力が図られるよう、国・地域のバランスを考慮しつつ明確な目的の下、関係する教職員、研究者及び行政官を招へいします。

② 保険

JSTは、万一の事態への対応に遺漏なきを期すよう招へい者に対して、念のため日本滞在中の保険を付保します。

③ 査証（ビザ）

査証（ビザ）が必要な国に関しては、受入れ機関からJSTに対して一定期間内に招へいに関する正確な情報が提供された場合は、JSTは本事業により招へいする旨の書類を提供します。その場合、査証（ビザ）の申請費用が免除される可能性があります。

④ 修了証明書

JSTはさくらサイエンスプランで招へいされ、交流計画を修了した者に対して修了証明書を発行します。

⑤ さくらサイエンスクラブ

JSTは、さくらサイエンスプランで招へいされ、交流計画を修了した者が、帰国後も本事業を支援するとともに我が国の科学技術や教育機関に関する情報を継続的に共有することを目的として「さくらサイエンスクラブ」を設置します。交流計画を修了した者は、原則として「さくらサイエンスクラブ」のメンバーとして、JSTから日本の科学技術や関係教育機関の情報等を受け取ることとなります。

⑥ 関係する機関や計画との連携

JSTは、本事業を効果的に進めるために、必要に応じ、関係する他の機関や計画と連携します。

(4) 科学技術交流支援情報提供事業

① プラットフォームの内容

JSTの有する科学技術交流に資するコンテンツを収集、整理してリスト化し、「科学技術交流コンテンツのプラットフォーム」としてウェブ上で概要を公開します。また独立行政法人、民間企業、地方公共団体等が行う科学技術イベントやショールーム、科学館等のコンテンツも同様にリスト化し、プラットフォームの一部として、その概要をウェブ上で公開します。また、このプラットフォームの情報はJSTが定期的に最新情報に更新します。

② 利用方法

本プログラムの交流事業の協力機関を含めて、科学技術交流事業を実施する機関は、プラットフォーム上の情報を閲覧し、自らの交流事業に取り込みます。様々な交流事業実施機関はJSTから提供される連絡先に連絡をとり交流事業への取込みのための調整を行い、取込みが成立した場合は、その旨の通知をJSTにします。

なお、交流事業に適切なコンテンツ案の提示等、交流事業実施機関の要請に応じてJSTが必要な支援を行います。

③ コンテンツ利用機関の実施後のフォローアップ

コンテンツを利用した交流事業実施機関は、交流事業において本事業が対象とする国・地域からの参加者数と参加者へのアンケートの結果をJSTに提出します。

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」 （さくらサイエンスプラン）の応援について

私たちは、JSTが進める「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（「さくらサイエンスプラン」）を応援します。

アジアは飛躍的に発展しつつあります。科学技術は、これからのアジアの未来を切り拓くものであり、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることは、アジアと日本の未来にとって極めて重要です。

さくらサイエンスプランは、高校生、大学生、大学院生、ポストドクターなど、アジアの幅広い青少年を日本に短期間招聘するプログラムで、日本の青少年と科学技術の分野で交流を深めます。

私たちは、この事業がアジアと日本の未来の大きな財産になることを期待し、確信しています。

私たちは、アジアと日本の青少年、また関係する機関が積極的にさくらサイエンスプランに参加してくれるよう呼びかけます。

江崎 玲於奈	横浜薬科大学学長 1973年ノーベル物理学賞
利根川 進	理化学研究所脳科学総合研究センター長 米国マサチューセッツ工科大学教授 1987年ノーベル生理学・医学賞
白川 英樹	筑波大学名誉教授 2000年ノーベル化学賞
野依 良治	理化学研究所前理事長 2001年ノーベル化学賞
田中 耕一	島津製作所シニアフェロー 2002年ノーベル化学賞
小林 誠	高エネルギー加速器研究機構特別栄誉教授 2008年ノーベル物理学賞
益川 敏英	名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 2008年ノーベル物理学賞
下村 脩	米国ボストン大学名誉教授 2008年ノーベル化学賞
鈴木 章	北海道大学名誉教授 2010年ノーベル化学賞
根岸 英一	米国パデュー大学特別教授 2010年ノーベル化学賞
山中 伸弥	京都大学教授 2012年ノーベル生理学・医学賞
赤崎 勇	名城大学終身教授 2014年ノーベル物理学賞
天野 浩	名古屋大学教授 2014年ノーベル物理学賞
中村 修二	米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授 2014年ノーベル物理学賞
黒田 玲子	東京理科大学教授 元国際科学会議（ICSU）副会長
榊原 定征	日本経済団体連合会会長
毛利 衛	日本科学未来館館長 宇宙飛行士
有馬 朗人	武蔵学園長 科学技術振興機構中国総合研究交流センター長 元文部大臣 元科学技術庁長官

実施機関

科学技術振興機構 (JST)
中国総合研究交流センター (CRCC)
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
TEL : 03-5214-0095 FAX : 03-5214-8445
E-mail : ssp@jst.go.jp
URL : <http://ssp.jst.go.jp/>

サイエンスポータルチャイナ : <http://spc.jst.go.jp/>
客観日本 : <http://www.keguan.jst.go.jp/>

ACCESS

東京メトロ有楽町線「麹町駅」(6番口)より徒歩5分
JR「市ヶ谷駅」より徒歩10分
都営新宿線、東京メトロ南北線・有楽町線「市ヶ谷駅」(A3番口)より徒歩10分
東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」(5番口)より徒歩10分

